

# 第49回愛媛県教育研究大会(発表大会)

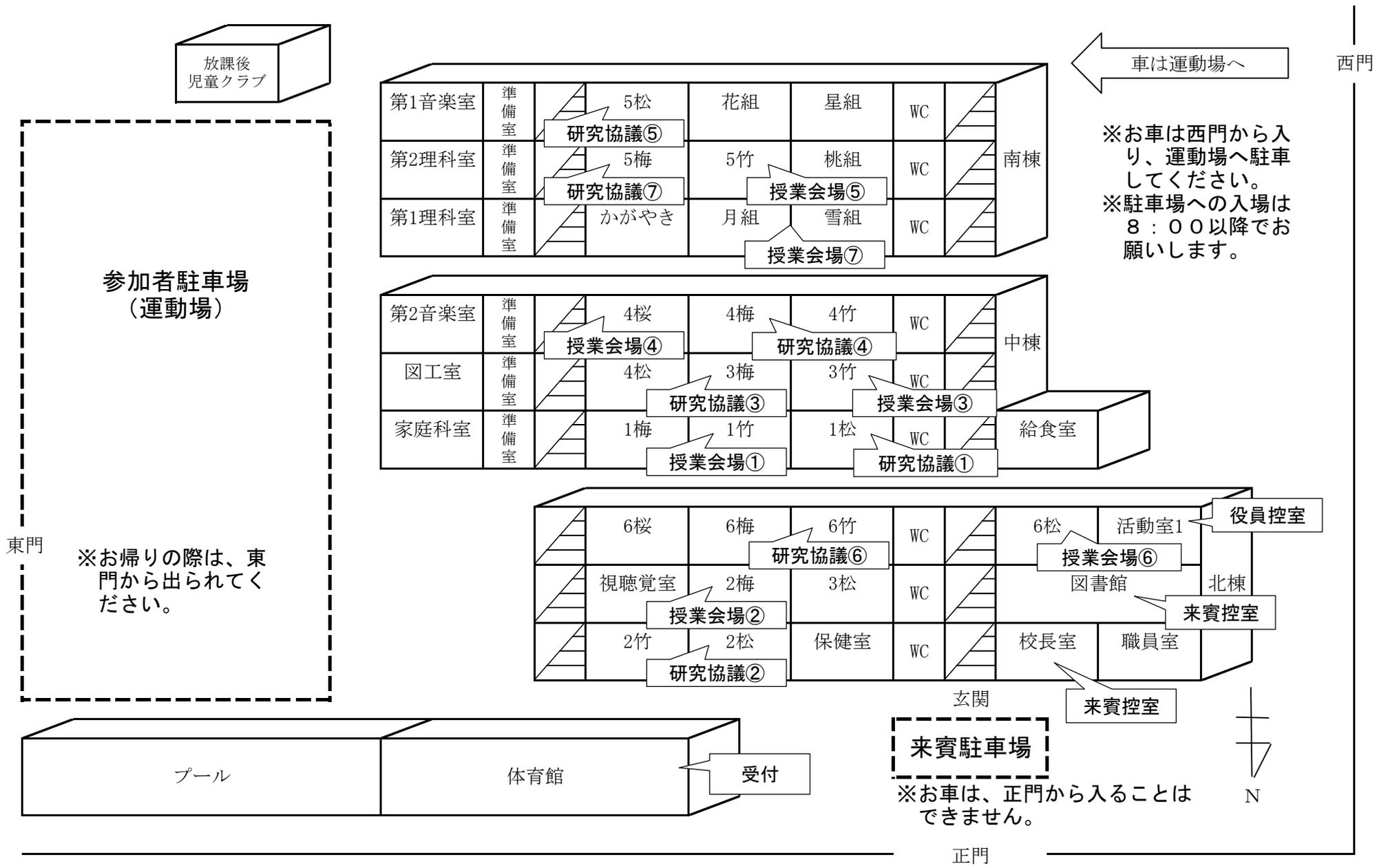
## 公開授業指導案集



令和4年11月9日(水)

新居浜市立金子小学校

令和4年度 金子小学校校舎配置図



# 研究推進計画(授業説明資料)

新居浜市立金子小学校

## 1 研究主題

自ら学び 豊かな関わりの中で 伝え合い 高め合う児童の育成  
～単元構成の工夫・必然性のある学習課題の設定・対話の場の充実を通して～

## 2 主題設定の理由

本校は、新居浜市の中心部に位置し、全校児童は597名である。児童は明るく穏やかで、与えられた課題に真面目に取り組む子が多い。伝統の「金子チャレンジ(漢字・計算・水泳・器楽・読書・体づくり)」における達成率も高く、学習の基礎・基本が比較的しっかりと定着している。その反面、人に自分から関わり、自分から何かをしようとする意識が薄く「受け身」で物事に臨んでしまう傾向がある。これらは与えられることに慣れてしまっているだけではなく、自分から行動し、仲間と何かを成し遂げる達成感や、誰かのために動いて「ありがとう。」と感謝される喜びを味わった経験の少なさもその原因の一つではないかと考えている。

そこで、主体性を引き出す教育活動や人と関わる豊かな体験活動の中で、自分の考えや思いを伝え合ったり、互いの良さを生かし広げ深めたりすることを通して、達成感や喜びを味わうことができれば、本校の教育目標「豊かな心を持ちたくましく生きる『金子のよい子』を育てる」の育成及び、愛媛県教育研究大会テーマ「子どもが変わる教育の推進ー主体的・対話的で深い学びの充実に向けてー」の実現につながっていくのではないかと考えた。

また、本校は平成28・29年度に文部科学省から、情報教育推進校「IE-school」の指定を受け、カリキュラム・マネジメントを通じて情報活用能力を育成する研究に取り組んできた。そこで、生活科・総合的な学習の時間を中心としたESD(持続可能な発展のための教育)の活動「未来につなげよう!金子愛顔の町プロジェクト～かかわる・つながる・ひろがる～」という主体的・協働的な学び合いを重視したカリキュラムをデザインし、実践を重ねてきた。しかし、核となる生活科、総合的な学習の時間の活動にはまだまだ改善の余地があり、児童の思考力・判断力・表現力の育成に十分機能しているとは言い難い状況である。そこで、この総合的・問題解決的な学習を展開できるESDのカリキュラム(生活科・総合的な学習の時間)と、人と関わる上で外せない言語活動(国語科)を研究の中心に据え、生きて働く教育活動にしていきたいと考えた。

豊かな関わりの中で繰り返し広げられる教育活動の中で、課題を解決する達成感や人とつながる喜びを味わう成功体験を重ねていくことができれば、更なる主体性を育むきっかけとなるばかりでなく、多様な他者と協働していくための豊かな人間関係の礎となると考え、本主題を設定した。

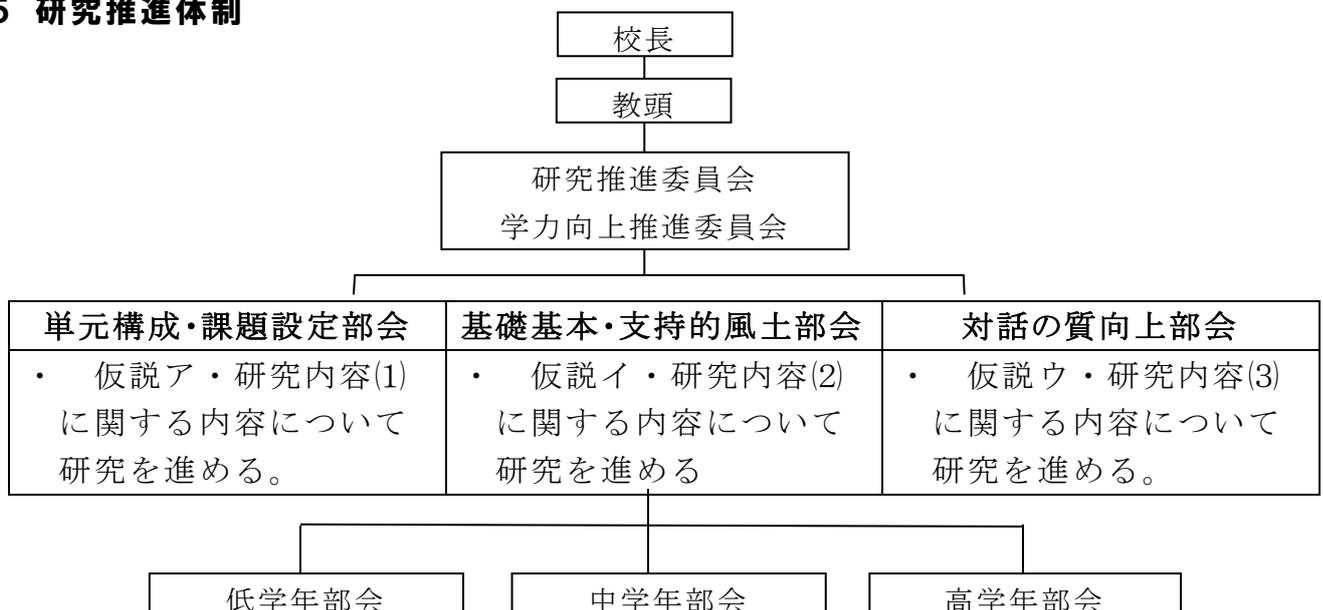
### 3 研究主題の捉え方

- 「自ら学ぶ」とは、「自分たちで問いを見付けるなど、解決したい課題を掲げ、解決方法を見通しを持って考え、課題解決に向けて、調整・修正しながら自分から学び続けること」と捉えている。
- 「豊かな関わり」とは、大きく分けて次の二つと捉えている。一つは、友達、先生、家族や地域などとの「多様な人との関わり」である。もう一つは、受容され認められる喜びを感じたり、刺激を受け視野が広がったりするなどの「多様な感情が得られる関わり」である。
- 「伝え合う」とは、「自分のありのままの思いを素直に表現し合い、傾聴し合えること」と捉えている。
- 「高め合う」とは「課題解決に向けて、互いの意見を比較したり、関連付けたりしながら、より良いものへと進化させていく中で、考えを広げ深めたり、自己の生き方を見直したりすること」であると捉えている。「高め合う」過程では、仲間意識や自己有用感、達成感を感じられるものであるとも捉えている。

### 4 研究の仮説

- ア 児童の知的好奇心を高め、学ぶ必然性のある学習課題を設定したり、思いや願いを生かした問題解決的、教科・横断的な単元構成を工夫したりすることで、自ら学ぼうとする児童が育つであろう。
- イ 児童の対話的な学びを支える基礎的・基本的な知識・技能の向上や支持的風土の確立を図ることで、できる実感や認められる喜びなどの達成感を味わう機会が増え、自ら学ぶ力を持った主体的な児童が育つであろう。
- ウ 豊かな関わりのある教育活動の中で、課題に応じた適切な対話の場を設定し、対話の質を上げる指導法を工夫することで、思考が深まり、共に高め合う児童が育つであろう。

### 5 研究推進体制



## 6 研究の内容

### (1) 主体性を引き出す総合的・問題解決的な単元構成の工夫と学ぶ必然性のある学習課題の設定

#### (ア) 主体性を引き出す学習展開の工夫

- ① 児童の思いや願い、体験を重視した問題解決的な単元構成の工夫 (J アイ B イウ)
- ② 学ぶ必然性のある学習課題の設定 (B イウ A ウ)
- ③ カリキュラム・マネジメントによる教科横断的なE S Dの活動の展開 (O アイ ウエ)
- ④ 児童が部分的に進行するガイド学習の導入 (C カ)

#### (イ) 解決の見通しを持つ場と振り返りの場がある授業

- ① 解決の見通しを持つ場の工夫 (C イエ)
- ② 本校独自の合言葉(きなこもち)を活用した振り返りの場の工夫 (E オ)

### (2) 主体的な学びを支える基礎的・基本的な技能の向上と支持的風土の確立

#### (ア) 基本的な知識・技能の定着と学習環境の整備

- ① 金子小授業モデルの確立 (C カ)
- ② 児童考案の合言葉等によるラーニングスキルの定着 (E イ G オ)  
〔聞く：あめだま〕〔話す：かれいうどん〕
- ③ 「あめだまタイム」によるコミュニケーションスキルの伸張 (G オ)

#### (イ) 自尊感情を育み、認め合い・励まし合い・響き合う集団を育てる環境づくり

- ① ふわふわ言葉の推進 (G カ)
- ② 構成的グループエンカウンターを中心にした仲間づくり (G カ)

### (3) 課題に応じた適切な対話の場を設定し、対話の質を上げる指導方法の工夫

#### (ア) 自分の考えを形成する場の工夫

- ① 自己内対話の時間の確保 (C イエ)
- ② 「考えるための技法」(比較する)(関連付ける)の効果的な活用 (C エ N イ)

#### (イ) 対話の場の工夫

- ① 課題解決に合った対話の場の設定 (G アイ I ア J ウ)
- ② 思考の可視化と学び合いの可視化による対話の活性化 (H アウ)

#### (ウ) 対話の質を上げる指導方法の工夫

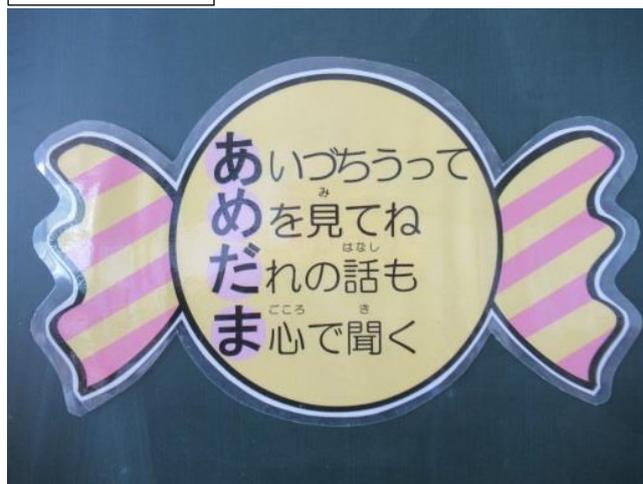
- ① 思考を促す言葉掛けや指導法の研究と実践(教師の話合いへの参加等) (H イ)
- ② 児童の学びを見取る工夫と、指導につなげる評価の在り方 (I イウ N オ)
- ③ ファシリテーターとしての技術向上(教師・児童) (I イウエ)

## 7 ESDカリキュラム「未来につなげよう！金子愛顔の町プロジェクト」

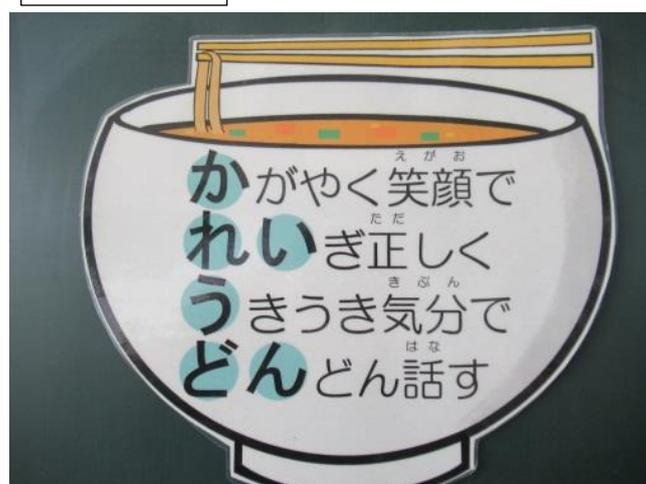
| 学年 | 活動名                                   | 関わる人               |
|----|---------------------------------------|--------------------|
| 1  | えがおいっぱい<br>ともだちいっぱい                   | 2年生 園児<br>教職員      |
| 2  | えがおいっぱい 町と友だち                         | 地域の人               |
| 3  | 笑顔いっぱい<br>自まんのふるさと                    | 小女郎狸踊り保存会<br>地域の人  |
| 4  | 笑顔いっぱい 住みよい町に                         | 障がいのある方<br>高齢者     |
| 5  | 笑顔を守る 安全・安心の町に                        | 防災士 地域の人           |
| 6  | 未来につなげよう！<br>金子笑顔の町<br>～生き方のカギを見つけよう～ | キャリアアドバイザー<br>地域の人 |

## 8 本校独自の合言葉と「考えるための技法」活用カード

聞く合言葉



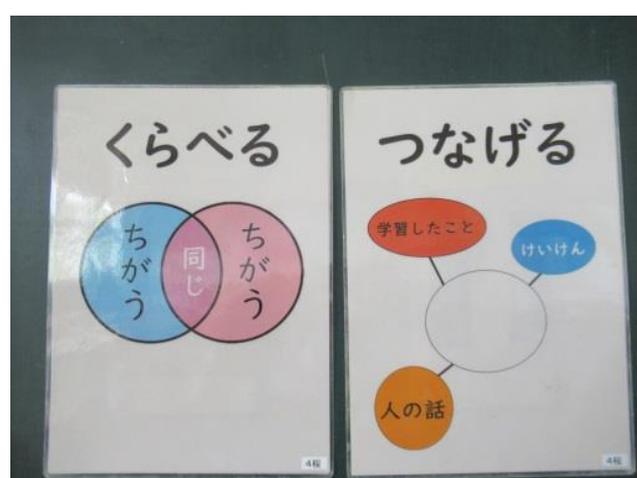
話す合言葉



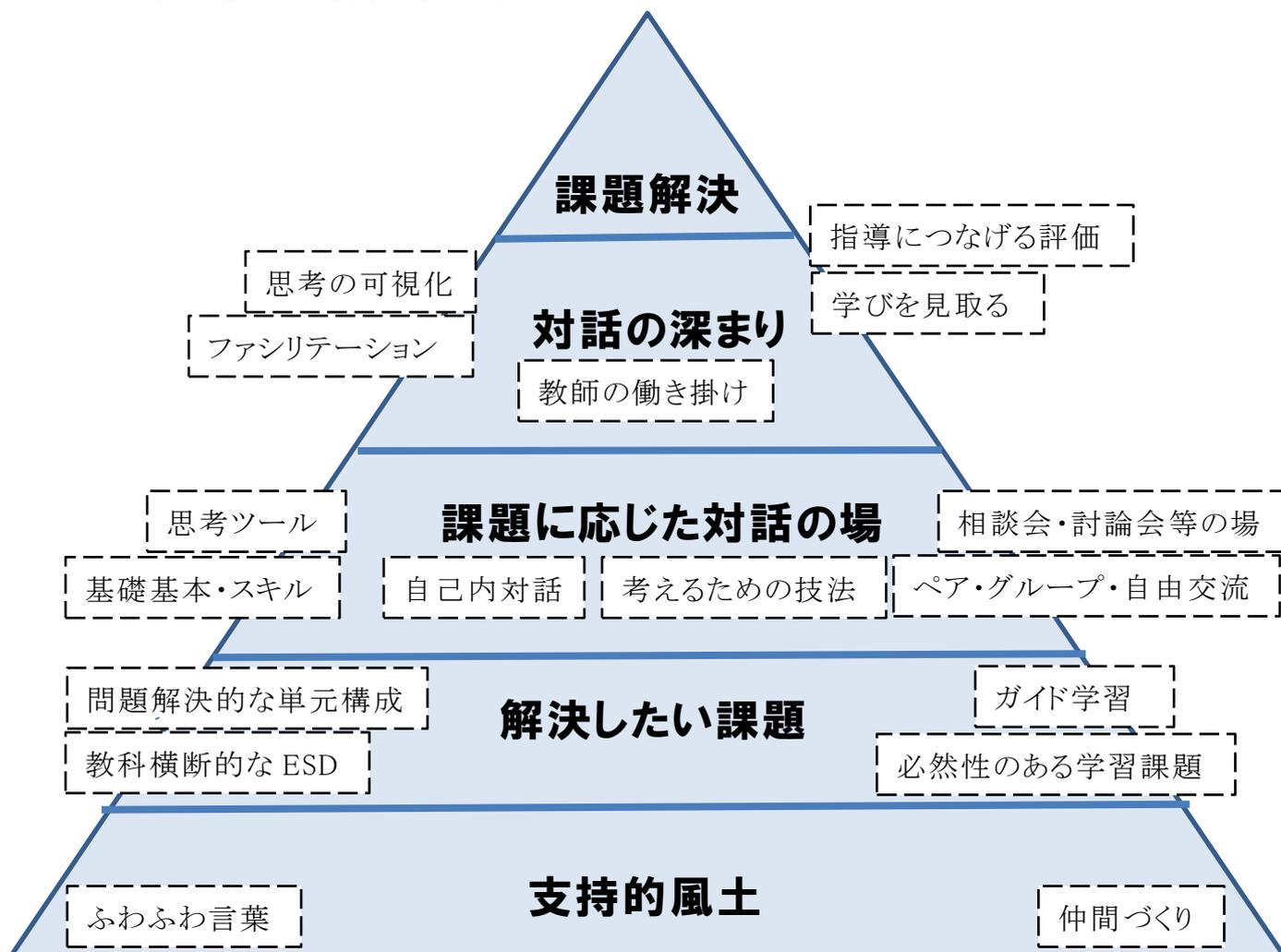
振り返りの合言葉



「考えるための技法」活用カード



## 9 本校が考えた「対話の深まり」へのプロセス



## 10 公開授業における「対話の深まり」を目指した手立て

|                       | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特支 |
|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 教科横断的な ESD カリキュラム   |    |    |    | ○  | ○  |    |    |
| 2 問題解決的な単元構成          | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 3 必然性のある学習課題          | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 4 自己内対話               | ○  |    |    |    |    |    |    |
| 5 考えるための技法            |    | ○  | ○  |    |    |    |    |
| 6 思考ツール               |    |    | ○  | ○  | ○  | ○  |    |
| 7 ガイド学習               |    |    |    | ○  |    | ○  |    |
| 8 課題に合った対話の場          | ○  |    | ○  | ○  |    | ○  | ○  |
| 9 学習形態(ペア・グループ・自由等)   | ○  | ○  | ○  | ○  |    | ○  |    |
| 10 教師の働き掛け(思考を促す切り返し) | ○  | ○  | ○  |    |    |    | ○  |
| 11 教師の働き掛け(話し合いへの参加)  |    |    |    | ○  | ○  | ○  |    |
| 12 ファシリテーションスキルの活用    |    |    | ○  |    |    |    |    |
| 13 板書等による思考の可視化の工夫    | ○  |    |    |    |    |    |    |
| 14 「きなこもち」による振り返り     |    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |
| 15 ICT 活用             |    | ○  |    | ○  | ○  | ○  | ○  |